OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	懐徳堂研究 第2号 編集後記
Author(s)	
Citation	懐徳堂研究. 2011, 2, p. 140-141
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24637
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

平成二十一年（二〇〇九）年五月、旧来の懐徳堂センターが改組され、新たに懐徳堂研究センターが発足した。平成二十二年、センターは二年目の活動に入り、いくつかの重要な成果を上げた。

まずは、センターが受託している三木家文書の整理と目録作成である。兵庫県の旧大庄屋であった三木家には、懐徳堂関係人物の書簡を初めとして貴重な資料が含まれている。大阪大学文学研究科では、この資料の寄託を受け、調査を進めていたが、このたびようやくその基礎的調査を完了し、目録を作成するに至った。

次は、懐徳堂展である。創立百周年を迎えた懐徳堂記念会の記念事業の一環として懐徳堂展が開催された。その準備、題簽・目録作成、設営、撤収などの各作業に、懐徳堂研究センターは大いに貢献した（詳細については本号掲載の「懐徳堂展と資料修復」参照）。

第三は、デジタルコンテンツの制作である。懐徳堂研究センターでは、懐徳堂文庫に含まれる貴重資料の電子化を進めているが、今年度は、中井履軒の「聖賢扇（せいけんおうぎ）」と『越俎弄筆（えっそろうひつ）』に取り組んだ。「聖賢扇」とは、履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。たとえば、「孔孟」は「伊丹極上御膳酒」と絶賛する一方、懐徳堂の論敵であった荻生徂徠については「鬼ころし」（とても酒とは思えない）と酷評する。この資料は、表と裏を対照させてみてはじめてその面白さが分かる。そこでデジタルコンテンツ「聖賢扇」を制作した。簡単なマウス操作で扇の両面を回転させ、閲覧することができるのである。

また『越俎弄筆』は、履軒の医書。履軒は、麻田剛立（あさだごうりゅう）が獣体解剖を行い、人体との対照確認を行おうとするのに立ち会い、この経験を基に、自ら人体解剖図十五葉を彩色筆写し、解説を加えた。本書の成書は安永二年。それは杉田玄白らによる『解体新書』完成の前年のことであった。このデジタルブック『越俎弄筆』では、『越俎弄筆』の全ページを、本をめくるようにして閲覧できるほか、目次から該当ページへのジャンプ、画面の拡大・縮小など、デジタルコンテンツならではの機能が搭載されている。いずれも「WEB懐徳堂 http://kaitokudo.jp/」で公開している。

そして最後は、この『懐徳堂研究』第二号の刊行である。今号も充実した論考・報告によって構成することが

できた。第三号の刊行に向けてさらに活動を継続していきたい。

（懐徳堂研究センター長　文学研究科教授　湯浅邦弘）

お詫び

『懐徳堂研究』創刊号（平成二十二年二月）の執筆者紹介欄におきまして、執筆者のお一人であった釜田啓市氏のご芳名が欠落しておりました。改めてここに掲載し、釜田氏および読者の皆様に深くお詫び申し上げます。

釜田啓市（かまた・けいいち）
清真学園高等学校教諭